国臨協関信

H.P:http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/
パスワード：kansin

平成22年６月

事務局　〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部内
発行者　田島紹吉
編集委員　渡司博幸・沼田正男・菅原恵子
印刷所　東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第38回　国臨協関信支部定期総会 開催

支部長挨拶

(独)国立精神・神経医療研究センター病院
田島紹吉

４月24日の定期総会で新役員が承認され平成22年度の執行部を任されることになりました。４期を務め上げ数々の改革に取り組んでこられた三浦前支部長をはじめ退任された旧役員の方々の熱意と多くの実績に対して最大級の敬意を表したいと思います。旧役員の方々のご努力により活発に支部活動が展開されておりますので、その流れを引き継ぎ会員の皆様の身近に位置する関信支部を目指して新役員が一丸となって頑張る所存ですので、今まで以上のご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、前執行部で会期が見直され、一年会期としては今年度が初めてとなります。今までのパターンが当てはまらないこともあり、やや遅れ気味の会務進行を余儀なくされており新執行部の頑張りどころであります。関信支部ニュース（第180号）が発行されるころにはビアパーティーも無事終了している頃と思いますが、支部として大きなイベントのひとつでありますビアパーティーでは大いに盛り上がりたいところです。そして、総会と分離後に初めて開催される９月の関信支部学会に多くの会員の方々に足を運んでもらえるよう準備を進めておりますので、前年度同様に多数の演題がエントリーされることを願っております。

すでに第一回研修会は終了しましたが、例年通りいろいろな分野での研修会を開催予定です。また、地区会との合同の研修会も企画段階ではありますが考えております。開催場所もなるべく多くの会員の方々が参加しやすいように交通の便の良い所を物色しておりますので、臨床検査技師として知識・技術習得の一つの場として大いに利用して頂きたいと思います。

最後になりますが、臨床検査専門職、国臨協本部、技師長協議会のご指導を賜り、関信支部の会務に努めて参りますので、会員の皆様も進んで支部活動にご参加いただけるようご協力をお願い申し上げます。

退任挨拶

(独) 国立がん研究センター 中央病院
三浦隆雄

平成18年９月から22年４月までの間、関信支部長を４期務めさせていただきました。任期中は、後ろ向きには進みにくいもので、前向きに「現状否定の精神」を心がけてまいりました。　いずれの事業提案も会員相互の良好な関係をつくることを意図して、関信ブロック臨床検査専門職や技師長協議会、国臨協本部そして各地区会との意見交換と連携を深め、多くの会員が交流できる場の設定に努めてまいりました。

すでに過去のこととなりましたが、特筆しておきたい事項としては、長年出来そうでできなかった「退職会員を囲む合同交流会」の敢行、技師長会との連携により実現した「支部学会と技師長協議会総会の同日開催」、総会直前まで懐疑的であった支部発足以来の「支部会期の見直しと支部学会・総会の分離」、「地区会活性化のための助成金支給」、等々がありました。いままでにないはじめての事ばかりで、支部役員にとってはストレスの多い会務であったと思われますが、頼りになる副支部長・事務局長・理事の皆様に恵まれ、大方の目標は達成できたことを嬉しく思っております。たいへんにお疲れさまでした。また、会務の状況や成果に応じてアドバイスや心強い賛同の一声を掛けてくれた皆様に感謝いたします。今思うと、たまたまの巡り合わせで支部長を拝命し、多くの貴重な経験ができましたことは、どれをとっても会員の皆様のご理解とご協力のおかげがあったからこそと深く感謝しております。

個別の独立行政法人となった国立高度専門医療研究センターと国立病院機構に対する事業仕分けの評価を受けて、われわれを取り巻く状況にさけては通れない大きな変化の兆しがみえております。今後、大小さまざまな変化の連続が予測されますが、国臨協関信支部がある限り、医療の本質を成す臨床検査が不滅である限り、新たな視点で臨床検査部門の質的向上と活性化に向けての会務を遂行していかなければなりません。

次世代を背負う若く新しい世代の人材育成に関することは、いつの時代も最重要課題の一つです。関信支部は、そのために各種研修会や支部学会等の開催を会務の大きな柱と位置づけております。とくに将来性抜群の若手・中堅会員の皆様には、できるだけ多くの方々と交流を持ち、支部活動の中から引き継がれるべき知識、技術、そして「熱意」を感じとっていただければと思っています。才能よりもプラス指向の根気があれば、必ずや何かが得られ、仕事力アップにつながるはずです。

終わりに、新執行部のご活躍と会員の皆様の益々のご発展とご幸運を祈念し、退任挨拶といたします。ありがとうございました。

平成21年度地区代表者会議議事録（要旨）

日時：平成22年2月20日（土）10時～11時50分　場所：国立国際医療センター戸山病院　管理棟５階　特別会議室

出席者：三浦、吉田、渡司、林、北沢、山崎、山田、沼田、川村、会田、橋本、峰岸、久間

東京・埼玉地区技師長会	：	市川一三
茨城地区会	：	堀口日出子
栃木地区会	：	松林守
群馬地区会	：	霜田重雄
千葉地区会	：	内野厳治
神奈川地区会	：	原田哲志
新潟地区会	：	菅孝
長野地区会	：	高藤博
山梨地区会	：	川畑久
関信ブロック臨床検査専門職	：	永井正樹

（敬称略）

１．開会の挨拶（渡司副支部長）

２．支部長挨拶

例年６月に開催していたが、会期の変更により２月の開催となった。午後は、臨床検査技師長・副臨床検査技師長合同研修会が行われるので地区代表者会議の時間が短くなってしまった。地区代表者会議は、支部活動を行う上で重要な会議と考えているので活発なご意見、ご討議をお願いしたい。

３．平成21年度支部理事・地区代表者自己紹介

４．関信支部経過報告

事務局、渉外部、学術部、広報部より活動報告が行われた。

事務局：各地区会との連携の中で千葉地区の掲載がない。これは、移行期間のため会期が4月で終了するため7月開催の千葉地区は掲載されていない。４月24日は午前に秋葉原で第4回研修会と第38定期総会が行われ、午後からは会場を市ヶ谷に移し合同交流会が行われる予定となっている。ぜひ多数の参加をお願いしたい。

５．各地区会経過報告

各地区代表者より、組織状況及び活動報告が行われた。

栃木地区の勉強会には、会員以外に看護師が参加し活発に行われている。

６．地区提出議題・支部提出議題

１）東京・埼玉地区技師長会

⑴超音波研修会の内容について（消化器、循環器以外の領域の検討）

研修会の内容としては、参加者が多いと考えられる領域が第一候補にあげられる。ただし、少ない領域については、ひとつの方法として学会セミナーとして企画することも考えられる。

研修会の内容が認定資格に関する企画が多いので、新人技師を対象にした基本的な内容の研修会の要望があった。支部としては、昨年から今年にかけて生化学検査や一般検査などの内容の研修会を行ったが、今後も配慮していきたい。

専門職から新人教育については、関信ブロックとしても考えていかなければいけない課題であると助言があった。

２）茨城地区会

⑴地区会ポスター、会報をホームページに掲載して頂きたい

地区会活動に苦慮しており、他地区の地区会活動を参考にしたいとの意見があった。支部としては、ホームページもリニューアルしその中に地区会のコーナーがあり、各地区の新聞や活動報告について、事務局が掲載依頼の窓口となり掲載を考えている。

⑵支部学会の優秀賞の審査員を増やして頂きたい

栃木地区会からも同様な議題が提出されているので、栃木地区会のところで討議する。

３）群馬地区会

⑴各研修会の継続

限られた会期の中で多岐にわたる研修会を行っていて満足しているので、継続してほしい。

支部の研修会は、今年度４回、来年度は６回、さらに症例検討会を予定している。外部講師を招聘しているのは、関信管内だけでなく、外部からの講師を招き、意見を聞くのも大事と考えている。

４）千葉地区会

⑴ルーチンアドバイザーに関する質疑応答情報の早期提供

回答に引用文献等の添付が必要との意見がありＱ＆Ａ集の作製は簡単には行えなくなっている。セミナー等でルーチンアドバイザーに講師を頼み浸透を深めたい。

⑵国臨協会員の訃報情報連絡網整備

故人が本人なら支部から地区代表者宛へのメール配信の対応は可能。施設より支部に連絡を受けた場合に限り転送配信する事も出来るが、関信支部の負担が大きい。故人の施設長から技師長協議会に連絡し、技師長協議会より配信できないか検討してもらうことになった。

⑶各種研修会の継続

群馬地区会の内容と重複のため割愛。

⑷地区会活動助成金の増額

現在40,000円で年間1～2回の研修会は出来る金額として想定している。現状のまま継続することで了承していただいた。複数の地区会が共同で大きな事業を提案された場合は、理事会で追加助成金を検討する。

神奈川地区会

特になし

５）新潟地区会

⑴認定資格取得者への諸手当について

諸手当の必要性について、技師長協議会、国臨協本部、ブロック専門職も理解しているが、施設の要望を受けて認定資格を取得しているわけではなく、現状では自己のスキルアップという意味合いが強いので難しい。

⑵国臨協関信支部学会の更なるレベルアップについて

演題数が多く時間的に厳しいため、単調な（形式的な）質疑応答が多くなってしまっていた。今年の学会より総会がなくなる分、時間にゆとりが生まれ質疑応答時間を長く設定できると考えられる。活発な質疑応答が行われるように努力したい。

⑶支部から学会開催の通知と会員全員の参加要請について

全施設に発刊番号を付けて開催通知を施設長宛てに発送、施設連絡者にはメールを配信することは可能である。ただし、交通費が支給されての学会参加となると出張扱いとなり代休を取得することになる。代休対応になると日常業務に支障を生じることが予想されるので、今回の議題は見送ることとする。

6）長野地区会

特になし

7）山梨地区会

特になし

8）栃木地区会

⑴学会奨励賞及び学会特別賞選考方法の見直しについて

茨城地区会との議題と合わせて一括審議した。抄録の段階で１次選考として専門分野のルーチンアドバイザーに絞り込み作業を行う。そして、最終選考として選考委員会より選出してもらう。

表彰の人数は定数でなく選考委員が、選出すれば複数表彰も可能とする。

⑵微生物・輸血認定技師の育成には、今後、更なる研修会の対応

群馬地区会の報告と同様なので割愛。

⑶認定資格についての調査について

３年前に調査しており、傾向は変化していない。

9）支部提出議題

⑴新ホームページにおける各地区会のページ利用にについて

茨城地区会の議題と同様なので割愛。

⑵研修会など地区会との共催場所を地区代表者会議にて担当地区会を決定について

各地区総会や症例検討会時に共同開催を提案しているが、具体的には進展しない。地区代表者会議の場で企画や共催地区の決定を検討したい。

⑶支部学会の演題募集方法および発表スライドの受付について

演題申込と抄録原稿の締め切りを同日にすること。発表スライド用ファイルを学会当日に持参することについて了承された。案内についてはホームページに掲載する。

⑷支部学会における表彰選考委員について(RA委員の参画等)

⑸支部表彰について

定期総会の時期は、会期変更に伴い今後4月末日に行われる可能性が高く、同日に合同交流会も開催される。表彰対象者について、年内に退職が予定されている方を対象とするよりも退職された方を対象にしたい。このことで交流会には、参加者が多数になると期待できる。

⑹地区代表者会議の開催日について

来期以降の地区代表者会議の日程は、議案書に地区代表者会議の意見を含めたいので、1月中旬頃の開催を考えている。

7．その他

1）栃木地区会

地区総会の日程を他の地区会と重複を避けるため、栃木地区会は12月上旬の開催を考えている。

地区総会の開催時期は、地区により様々である。専門職の希望としては、同じ情報等を共有することができるので、開催時期を同じ時期（例えば11月～12月頃）に集中させることができれば好都合である。開催時期については今後、各地区会で検討が必要である。

2）山梨地区会

生化学検査における基準値の再調査（再評価）をお願い。

現段階では詳細な内容が不明なので、情報提供をお願いします。

8．永井専門職より挨拶

9．閉会の挨拶（吉田副支部長）

新役員　役務分担

支部長		
（総　　括）	田島　紹吉	国立精神･神経医療研究センター病院
副支部長		
（総括補佐広報）	渡司　博幸	ＮＨＯ霞ヶ浦医療センター
副支部長		
（総括補佐学術）	林　　亮	ＮＨＯ下志津病院
事務局長		
（事　務　局）	峰岸　正明	ＮＨＯ相模原病院
理　　事		
（事務局総務）	北沢　敏男	国立国際医療研究センター病院
（事務局総務）	山田　　晶	ＮＨＯ東京医療センター
（事務局学術）	山崎　茂樹	国立成育医療研究センター
（会　　計）	平原　博美	国立国際医療研究センター国府台病院
（学　　術）	橋本　洋二	国立がん研究センター中央病院
（学　　術）	仲間　盛之	ＮＨＯ千葉東病院
（学　　術）	金子　　勇	ＮＨＯ災害医療センター
（広　　報）	沼田　正男	ＮＨＯ埼玉病院
（広　　報）	菅原　恵子	ＮＨＯ東京病院
会計監査	太田　雅司	NHO高崎総合医療センター
会計監査	近藤　　正	ＮＨＯ箱根病院

臨床検査技師長協議会関信支部主催
臨床検査技師長・副臨床検査技師長 合同研修会報告

ＮＨＯ高崎総合医療センター　大川正人

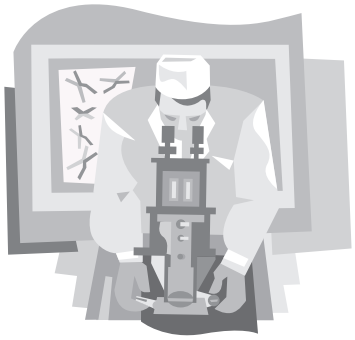
平成22年２月20日（土）国立国際医療センター戸山病院に於いて、臨床検査技師長協議会関信支部主催による臨床検査技師長・副臨床検査技師長合同研修会が開催されました。

初めに、永井正樹臨床検査専門職より「ブロック専門職の伝達指示」と題して、平成20年10月より始まった検査試薬共同購入における共同入札の仕組からこれまでの効果額の説明があり、今後の共同購入において、今以上のスケールメリットを出す為に、試薬購入品目の集約基準の作成を進め、国臨協本部事業の試薬の統一化とリンクさせていくとの報告がありました。また、人事交流・政策医療財団の助成研究の報告・キャリアパス（人材育成）についての貴重な講義を頂きました。

続いて、国立病院機構関東信越ブロック事務所統括部改善指導課　業務改善指導職の坂本秀宣先生より「経営管理指標、特に臨床検査部門について」と題して、病院の経営管理における財務諸表としてのＰＬ（損益計算書）ＢＳ（貸借対照表）ＣＦ（キャッシュフロー計算書）といった財務三表と管理指標の見方において、シミュレーションを交えての講義がありました。特に数値は現状分析のツールであり、その結果をどのように病院運営に反映させていくかが大事とのことで、検査室が何をすれば改善できるかを継続的に検討していかなければならないと痛感しました。

最後に、千葉科学大学大学院　危機管理学研究科　教授の三村邦裕先生により「我が国における臨床検査技師教育」と題して、これまでの時代背景を踏まえた臨床検査技師教育の歩みと大学院教育について講演して頂きました。現状の学校教育を理解した上での、これからの人材育成の為の道筋に役立てていきたいと感じました。

研修会に参加させていただき感謝申し上げますとともに、技師長協議会の役員の皆様と臨床検査研究会幹事に厚くお礼申し上げます。



平成21年度
臨床検査精度管理調査報告会

学術担当　橋本・広報担当　山田

平成22年３月５日（金）日本医師会館にて行われた「平成21年度臨床検査調査報告会」に出席したのでその要旨を報告します。

今年度の参加施設は3,159施設であったが、前年度より２施設減少した。調査項目は臨床化学一般検査8項目、酵素検査8項目、脂質検査4項目、HbA1c、腫瘍マーカー５項目、甲状腺マーカー２項目、感染症マーカー３項目、免疫グロブリン３項目、尿検査３項目、血液学検査７項目、凝固検査３項目の全47項目であった。

今年度も昨年度同様インターネット回答を採用し、郵送方式と併用した。インターネット回答は1,806施設（57.2%）で実施され、前年度の1,412施設（44.7%）より増加した。臨床検査協会より頂いた資料を基に試薬と機器メーカー誤登録の防止を行ったのでアンマッチ施設数が減少した。

集計作業上の問題点として、測定原理や緩衝液などでの分類間違い、桁間違いなどの誤記入、機器・試薬分類を「製造販売元」ではなく「販売元」を記入している施設が少なくない。販売されていない機器・試薬メーカー名と測定原理の不一致例が昨年度の12項目より改善されたが、1.0%以上の項目が５項目（IgM、IgG、IgA、TG、Glu）あった。各検査室は、自施設の測定試薬のメーカー名、測定原理、基質、緩衝液、標準物質を知っておくべきとの指摘があった。

評価・評点作業について、絶対評価をコンセンサスCV値で行う、測定系の標準化や試薬・装置の精密性を考慮し適切なCV値を設定する、濃度・活性値が低値な場合は補正共通CV値を考慮した。尿半定量検査はランク別評価とした。臨床化学検査で、可能な限り一群評価を試みたが、多くは原理別となった。平均値からの偏りが大きな試薬やドライケミストリー法はその程度を算出して独立評価とした。血液検査は機種群別とした。止血凝固検査は（機器×試薬）の群別評価とした。誤登録項目は「評価せず」とした。

結果の講評

1．トレーサビリティ確認は約70%前後の施設で実施されており、特に検診施設で高率であった。
2．臨床化学一般項目、酵素項目ではバラツキが小さく、施設間互換性が確保できている状態と考える。
3．酵素項目はJSCC勧告法、ERMの普及で収束化が進んでいる。
4．総コレステロールは収束していたが、HDLおよびLDLコレステロールは試薬間差がみられた。
5．HBｓ抗原では陽性試料を15施設（0.6%）が陰性、陰性試料を34施設（1.4%）が陽性に、HCV抗体では陰性試料を４施設（0.2%）が陽性、陽性試料を３施設（0.1%）が陰性であった。
6．腫瘍マーカーはバラツキがあまり改善されておらず、装置・試料間差が大きい。
7．尿検査では判定が分散しないような濃度設定としたが、左右にずれた施設もあった。目視法での判定基準、判定装置の設定基準を再検討してほしい。
8．CBCはほぼ収束しているが、網状赤血球はバラツキが大きい。
9．PTは試薬×装置の数が多く、バラツキが大きく問題である。
10．参加していても評価されない項目がある場合には理由を検討して改善してほしい。

前年度に引き続き標準物質のある生化学項目については良好な結果となった。以上、平成21年度精度管理における評価と問題点をまとめてみました。これらの点について自施設の現状を再度確認していただき、さらなる躍進に向け努力しましょう。

平成21年度臨床検査技師
実習技能研修２(輸血)に参加して

ＮＨＯ長野病院
松　井　孝　男

平成22年２月６日(土)、７日(日)の２日間、関東信越ブロック主催による臨床検査技師実習技能研修２（輸血）が開催され参加させていただきました。

今回の研修は、輸血検査業務に従事している検査技師を対象に、輸血治療の専門知識及び判断技術を習得させ、輸血治療の安全性向上に寄与できる人材を育成するための研修です。そして、輸血治療の安全体制の充実を図ることを目的に、「造血幹細胞移植における血液細胞処理・管理」、「輸血検査の基礎から応用」、「輸血療法に伴う副作用」、「輸血用血液製剤の配給状況」、「適正輸血と安全対策」、「輸血担当技師の役割」等について講義を受けました。また、２日目の実技講習では輸血検査に必要なスキルと不規則抗体検査の結果と解釈を基礎コースから学ぶことができました。

私にとって輸血検査は日当直時に行う業務で、不慣れな面から特に緊張しながら業務にあたります。一人の時、ウラオモテ不一致の血液型や緊急輸血の時は不安もありました。輸血検査の基礎から応用の講義では、日常検査で輸血に携わっていない者でも問題発生時にどの様な対応をとったら良いのか実践的な内容で、大変参考になりました。

安全に輸血を実施するためには、輸血治療に携わるすべての医療従事者が、正しい知識と技術を習得しないとならないと強く感じるとともに、輸血における臨床検査技師の役割は、輸血検査の質的な向上は元より、血液製剤の適正な管理や、輸血副作用などのことも念頭に置き、幅広い知識と技術の習得が重要であると改めて痛感しました。

今後は、安全な輸血を常に提供できることが輸血検査に従事している検査技師の責務であることを認識して、高い意識のもとで輸血業務に専念したいと思います。また、輸血検査を行う検査技師が、自信を持って輸血検査業務に従事できるように、研修で習得したことを積極的に検査科内に周知したいと考えています。また今回、輸血検査に携わる他施設の方々と意見交換ができたことも、私にとって大変有意義な研修となりました。

最後に、お忙しい中講義をして下さいました諸先生方に深く感謝を申し上げますとともに、研修会の開催にご尽力下さいました皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成21年度
院内感染対策研究会に参加して

国立成育医療研究センター
神宮司 深　雪

平成22年３月18日(木)から19日(金)の２日間、東京医療センターにて開催された院内感染対策研修会に参加しました。この研修会の目的は、院内感染対策に関わる医療従事者が、それぞれの職務に応じた感染管理上必要な知識の習得と資質向上及び関連部門との連携・強化を図ることでした。

研修１日目の内容は、医療従事者にとって必要な院内感染制御の基本、血液媒介における感染制御の実際、ウイルスや細菌の感染制御の実際など、臨床検査技師として当然身につけておくべき行動様式や姿勢、感染制御への対処方法などを細部にわたり教えて頂きました。

研修２日目の最後にはグループワークが行われ、病棟でインフルエンザを発症した患児が出た時の対応について話し合いました。私の班では、医師・薬剤師・看護師・臨床工学技士・臨床検査技師の９名で、患児への対応や同室の患児や患児に関わった医療スタッフへの対応について議論を交わしました。

この研修で、院内感染対策は喫緊の課題であることがよく分かりました。油断をすると患者からもたらされた感染症は治療や看護を通して、またたくまに院内感染を引き起こす恐れがあります。様々な方面からすばやく着実に対策をしなくてはいけません。

私は、12月から細菌検査業務に関わったばかりでしたので、今回の研修は今後の業務に役立つことばかりで、大変勉強になりました。特に、『感染症対策は特別な事ではなく、常に危険性を予測して日々の業務内容や行動を再点検し安全に着実に行うこと。また、常にチームの一員としての自覚を持って、他の職種の方々との連携に心がけて仕事に取り組んでいくことが二次感染を防ぐ上の基本である。』と思いました。幸い、私の勤務する病院は、各職場に優れたリーダーがたくさんいらっしゃるので、ご指導をいただき、いざという時に役に立つ様、より一層資質を高めていきたいと思います。

結びに、この有意義な研修を企画して下さった方々、分かり易く丁寧な講義をして下さった先生方、2日間も研修に参加させて頂きご迷惑をおかけした臨床検査部の方々に感謝申し上げます。

関信支部主催
ビア・パーティーのお知らせ

日　時：平成22年7月17日（土）
　　14：00～16：30
場　所：個室宴会 銀座ライオン
　　大手町ファーストスクエア店
　　東京都千代田区大手町1-5-1
　　大手町ファーストスクエアB1
電　話：03-3217-1736

アクセス：
地下鉄千代田線大手町駅
　Ｃ８ 徒歩１分
地下鉄半蔵門線大手町駅
　Ｃ８ 徒歩３分
ＪＲ東京駅　丸ノ内口
　徒歩８分

人／事／異／動

【平成22年３月31日付　退職・辞職者】

氏名	施設名	役職名	
田上高徳	国立がんセンター東病院	技師長	退職
塩澤勇治	国立がんセンター中央病院	技師長	退職
名賀秀己	下志津病院	技師長	退職
中村春木	村山医療センター	技師長	退職
杉村有司	国立精神・神経センター	技師長	退職
堀口日出子	水戸医療センター	技師長	退職
霜田重雄	高崎総合医療センター	技師長	退職
高崎信一	久里浜アルコール症センター	副技師長	退職
石田優美子	国立がんセンター中央病院	主任技師	退職
奥山五朗	村山医療センター	主任技師	退職
鈴木慶治	国立療養所多磨全生園	主任技師	退職
渡口　壽	国立がんセンター中央病院	主任技師	退職
岸　悦子	西群馬病院	主任技師	退職
松尾充子	栃木病院	技師	退職
田中じゅん	西埼玉中央病院	技師	退職
星野史恵	茨城東病院	技師	退職
貫井ますみ	東京病院	技師	退職
齋藤有希	災害医療センター	技師	退職

【平成22年４月１日付　異動者】

氏名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
山田清春	がん研究センター東病院	技師長	西新潟中央病院	技師長
川畑　久	西新潟中央病院	技師長	甲府病院	技師長
三浦隆雄	がん研究センター中央病院	技師長	東京病院	技師長
小松和典	東京病院	技師長	長野病院	技師長
原田哲志	村山医療センター	技師長	箱根病院	技師長
田島紹吉	精神・神経医療研究センター	技師長	相模原病院	技師長
浅里　功	相模原病院	技師長	国立療養所栗生楽泉園	技師長
中島　哲	水戸医療センター	技師長	新潟病院	技師長
太田雅司	高崎総合医療センター	技師長	久里浜アルコール症センター	技師長
吉田和浩	甲府病院	技師長	災害医療センター	副技師長
野田　岳	長野病院	技師長	国立国際医療センター戸山病院	副技師長
林　亮	下志津病院	技師長	横浜医療センター	副技師長
近藤　正	箱根病院	技師長	宇都宮病院	副技師長
石川　淳	国立療養所栗生楽泉園	技師長	茨城東病院	副技師長
御子柴佳剛	新潟病院	技師長	まつもと医療センター	副技師長
樋口祐子	久里浜アルコール症センター	技師長	国立国際医療センター国府台	副技師長
永井信浩	災害医療センター	副技師長	沼田病院	副技師長
南雲　功	沼田病院	副技師長	西埼玉中央病院	副技師長
土井誠一	国際医療研究センター病院	副技師長	千葉東病院	副技師長
稲葉　孝	横浜医療センター	副技師長	埼玉病院	副技師長
水島美津子	埼玉病院	副技師長	東長野病院	副技師長
齊間　理	東長野病院	副技師長	さいがた病院	副技師長
高橋康之	まつもと医療センター	副技師長	西群馬病院	副技師長
石井幸雄	国際医療研究センター国府台	副技師長	国立成育医療センター	副技師長
長田裕次	成育医療研究センター	副技師長	栃木病院	副技師長
桑村良隆	久里浜アルコール症センター	副技師長	霞ヶ浦医療センター	副技師長
蔵野信彦	霞ヶ浦医療センター	副技師長	東埼玉病院	副技師長
川村公彦	西埼玉中央病院	副技師長	国立がんセンター東病院	主任技師
小関　満	千葉東病院	副技師長	国立がんセンター中央病院	主任技師
中村宏紀	さいがた病院	副技師長	東長野病院	主任技師
清水紀臣	宇都宮病院	副技師長	高崎総合医療センター	主任技師
此崎寿美	茨城東病院	副技師長	国立国際医療センター戸山病院	主任技師
鈴木喜久雄	西群馬病院	副技師長	横浜医療センター	主任技師
金子　司	栃木病院	副技師長	長野病院	主任技師
佐藤紀之	東埼玉病院	副技師長	災害医療センター	主任技師
井上雅博	がん研究センター東病院	主任技師	国立がんセンター中央病院	主任技師
大島秀元	がん研究センター中央病院	主任技師	国立国際医療センター国府台	主任技師
服部利郎	東長野病院	主任技師	まつもと医療センター	主任技師
出井美智子	高崎総合医療センター	主任技師	西埼玉中央病院	主任技師
伊藤静子	西埼玉中央病院	主任技師	東埼玉病院	主任技師
霞　政治	東埼玉病院	主任技師	宇都宮病院	主任技師
真壁朝秀	国際医療研究センター病院	主任技師	国立がんセンター中央病院	主任技師
渡邊和則	横浜医療センター	主任技師	国立国際医療センター国府台	主任技師
渡邊勝美	災害医療センター	主任技師	国立精神・神経センター	主任技師
望月規央	精神・神経医療研究センター	主任技師	西埼玉中央病院	主任技師
若井智世	西埼玉中央病院	主任技師	国立療養所多磨全生園	主任技師
今井達也	国立療養所多磨全生園	主任技師	下志津病院	主任技師
加藤眞一郎	下志津病院	主任技師	国立療養所栗生楽泉園	主任技師
鈴木忠利	国立療養所栗生楽泉園	主任技師	神奈川病院	主任技師
渋谷千春	がん研究センター中央病院	主任技師	相模原病院	主任技師
河本健二	相模原病院	主任技師	千葉東病院	主任技師
高橋邦昭	千葉東病院	主任技師	災害医療センター	主任技師
伊藤　陽	村山医療センター	主任技師	国立がんセンター中央病院	主任技師
本間綾子	がん研究センター中央病院	主任技師	国立成育医療センター	主任技師
安藤敏一	成育医療研究センター	主任技師	東京病院	主任技師
竹内　豊	がん研究センター中央病院	主任技師	相模原病院	主任技師
山口秀樹	相模原病院	主任技師	国立国際医療センター戸山病院	主任技師
湊川靖之	国際医療研究センター病院	主任技師	水戸医療センター	主任技師
沼田ますみ	がん研究センター中央病院	主任技師	国立国際医療センター戸山病院	技師
寺戸一昭	国際医療研究センター国府台	主任技師	水戸医療センター	技師
宮澤寿幸	まつもと医療センター	主任技師	長野病院	技師
大島英男	宇都宮病院	主任技師	栃木病院	技師
荘司　路	がん研究センター中央病院	主任技師	東京医療センター	技師
内川正弘	長野病院	主任技師	西群馬病院	技師
山田貴正	神奈川病院	主任技師	国立国際医療センター戸山病院	技師
村上美恵子	災害医療センター	主任技師	国立精神・神経センター	技師
若林　弘	東京病院	主任技師	相模原病院	技師
青木正哉	国立療養所多磨全生園	主任技師	東京医療センター	技師
鈴木芳明	水戸医療センター	主任技師	横浜医療センター	技師
川上喜久	西群馬病院	主任技師	西新潟中央病院	技師
菊池智晶	埼玉病院	主任技師	国立国際医療センター戸山病院	技師
鳥海　洋	国際医療研究センター病院	技師	千葉医療センター	技師
河本峰奈	西群馬病院	技師	神奈川病院	技師
小杉夏代	精神・神経医療研究センター	技師	村山医療センター	技師
三五朋子	相模原病院	技師	東京医療センター	技師
高橋理誉	東京医療センター	技師	下志津病院	技師
隠岐博文	災害医療センター	技師	国立国際医療センター戸山病院	技師
上野晴菜	国際医療研究センター病院	技師	国立成育医療センター	技師
大西民子	千葉医療センター	技師	千葉東病院	技師
二瓶静香	西埼玉中央病院	技師	千葉医療センター	技師
堀内久実	村山医療センター	技師(採用)	埼玉病院	非常勤
佐藤和美	東京医療センター	技師(採用)	国立がんセンター中央病院	非常勤
有波香織	横浜医療センター	技師(採用)	国立がんセンター中央病院	非常勤
飯島健太	成育医療研究センター	技師(採用)	埼玉病院	非常勤
石川政志	千葉東病院	技師(採用)	千葉医療センター	非常勤
百瀬聡美	千葉医療センター	技師(採用)	国立国際医療センター戸山病院	非常勤
松本聖也	国際医療研究センター病院	技師(採用)	高崎総合医療センター	非常勤
村山加奈子	災害医療センター	技師(採用)	国立成育医療センター	非常勤
霜田由美子	西新潟中央病院	技師(採用)	新潟病院	非常勤
小松千夏	千葉医療センター	技師(採用)		
上杉弘尚	水戸医療センター	技師(採用)		
中澤恵都子	長野病院	技師(採用)		
香川成人	東京医療センター	技師(採用)		
川隅基子	神奈川病院	技師(採用)		
田村紗枝子	国際医療研究センター病院	技師(採用)		
三枝慶子	栃木病院	技師(採用)		
阿久津朋子	東京医療センター	技師(採用)		
加藤友子	東京医療センター	技師(採用)		
大槻晋也	茨城東病院	技師(採用)		
呉　麻子	東京病院	技師(採用)		

新横浜医療センター開院について

ＮＨＯ横浜医療センター　山　田　大　助

平成22年３月30日より横浜医療センターは新病院での診療業務がスタートしました。新病院は免震構造７階建て510床、診療科28科、10病棟、医師92名、後期研修医18名、初期研修医16名、看護師449名で、病棟は機能および臓器別センター方式として、救命救急センター（ＩＣＵ/ＣＣＵ　１０床）、脳神経センター（ＳＣＵ　３床）、消化器センター、循環器センター（ＨＣＵ　８床）、母子センター（ＮＩＣＵ　６床　ＧＣＵ　４床）などとなります。救急診療体制も全面的に変更され、９名の専属医師からなる救急科を新たに開設し、また13名の小児科医師による小児救急拠点病院として救急診療を365日24時間体制で行うなど充実強化され、急性期型高度総合病院として三次までの地域完結型医療を行います。また検査科も大きく変わりました。検体検査部門のワンフロアー化と新しい運営方式である従量課金方式により検査機器がほぼ一新されました。旧病院から自動グリコヘモグロビン分析装置、自動免疫測定装置、血液ガス分析装置が移設され、新たに生化学自動分析装置2台、自動免疫測定装置４台、自動血球分析装置２台、自動塗抹標本作製装置１台、血液凝固自動分析装置２台、自動尿分析装置１台、全自動尿中有形成分分析装置１台、自動浸透圧分析装置１台、全自動糖分析装置１台、搬送システム（生化学分析装置２台、自動免疫測定装置２台を接続）および臨床検査システムが配備されました。何もない部屋を見たときはずいぶん広く感じましたがこれだけの機器が配置されると逆に狭さを感じるほどでした。移転数週間前から徐々に機器が搬入され、通常業務をこなしながら試薬検討や操作訓練で毎日大忙し。荷造りもなかなかできないまま29日の引っ越し当日、緊急検査室の機器を残し一気に物が運び出されます。運送会社の人はさすがプロですね。すごい勢いでどんどん運びます。一通り配置を終えて30日午後から新棟での業務スタート。まだ荷ほどきされていない段ボールがあちこち積まれている中で、機器メーカーの方、システムＦＥの方のサポートで慣れない機器を操作しながらなんとか業務をこなします。今は業務にも慣れ、結果報告も旧病院のときに比べ飛躍的に速くなりました。これからもより一層患者様、診療側から信頼される検査科にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

地区会だより

栃木地区会定期総会・学術セミナーに参加して

NHO宇都宮病院　塩　谷　香　奈

平成22年２月27日（土）、ＮＨＯ宇都宮病院第一会議室にて、第32回国臨協関信支部栃木地区会総会・学術セミナーが開催されました。当日は永井臨床検査専門職をはじめ、関信支部より渡司副支部長、沼田理事をお招きし、25名の出席となりました。

定期総会は、松林会長の挨拶に始まり、平成21年度経過報告、会計報告、会計監査報告、平成22年度事業方針（案）、平成22年度予算（案）が承認され、平成22年度役員を選出し無事終了いたしました。総会終了後は、永井臨床検査専門職より、「ブロック事務所伝達事項」として特別講演が行われ、国立病院機構の現状、臨床検査技師会精度管理、登録選考試験、認定試験取得状況、研修計画、人事交流、試薬の共同購入等のお話を頂きました。その中で、若い技師には臨床検査技師である前に社会人であること、検査技師としての土台作りの必要性、仕事を好きになること（出来なければ、一生懸命に打ち込むこと）の大切さなど様々な内容についてお話していただきました。また、認定資格取得状況をグラフ化したスライドでは、取得するだけではなく、その後の活かし方についても重要であると言われていました。私は、臨床検査技師３年目ですが、まだ、検査技術のみならず、社会人として学ぶべきことがあることを痛感致しました。

学術セミナーでは、小池技師（NHO栃木病院）より「平成21年度栃木県内と当院のインフルエンザ感染状況」と題して、新型インフルエンザの特徴と栃木病院での対応・対策の報告が行われました。また、久間主任技師（NHO栃木病院）は「鼻腔通気度検査」、古谷主任技師（NHO宇都宮病院）は「睡眠時無呼吸症候群について」発表されました。鼻腔通気度検査は、当院で行われてなく大変興味深い発表でした。閉塞型睡眠時無呼吸症候群はCPAP療法を行うことで、睡眠は改善されると思っていましたが、鼻閉つまり鼻腔抵抗が高い場合、CPAP療法が上手く機能しないことも知りました。霞主任技師（NHO宇都宮病院）は、「当院における抗酸菌検査の動向」と題し、結核菌についての歴史的背景を含めた幅広い報告であり、抗酸菌検査を担当していない技師でも理解できる発表でした。特に検査データをまとめたグラフは大変分かりやすく、Mycobacterium属の感染において男女比があることに驚きました。

今回の４名の方々の発表は、どれも私達の関心をひくような内容であり、これからの検査技師に必要な知識が得られ大変有意義な学術セミナーとなりました。

全ての日程が終了後、バスに乗り込み、ピクニック気分で懇親会場に移動しました。美味しい中華料理を食べながら、会員相互の親睦を深め懇親会が終了いたしました。

最後に永井臨床検査専門職、関信支部理事の方々にはご出席･ご講演をいただき、心より感謝申し上げます。

編集後記

１年８ヶ月支部理事を経験させて頂き、多くの方々と出会えたことはとても勉強になりました。

今後は、一会員として支部活動に参加し若い方をもっと研修会等に参加して頂けるよう働きかけていきたいと思います。

会員の皆様、支部理事の方々、栃木病院の方々にはお世話になり深く感謝しております。

ありがとうございました。

前広報担当　ＮＨＯ栃木病院　久間　修平

地区会だより

第28回関信支部神奈川地区会定期総会及び学術講演を終えて

ＮＨＯ久里浜アルコール症センター　杉　原　理　恵

平成22年3月6日（土）ＮＨＯ相模原病院において、第28回関信支部神奈川地区会定期総会及び学術講演が行われました。当日は若干の雨模様でしたが、それを吹き飛ばすかの勢いで各施設の殆どの会員の方々に出席して頂きました。また議事進行もスムーズに進み大盛況の総会と成りました。

最初に、永井臨床検査専門職より臨床検査技師の現状と在り方、臨床検査技師の将来、行政との関わり等、詳細に検討された資料説明に終始感心して聞かせて頂きました。

学術講演ではＮＨＯ相模原病院 検査科長 齋藤生朗先生より『悪性ﾘﾝﾊﾟ腫の病理診断』についてお話頂きました。分類の複雑さやＷＨＯ分類第４版が免疫学、分子生物学に基づく難解な分類だと言うことが脳裏に焼き付いています。また、実際に経験された症例について病理組織像を中心に分かり易く解説して頂きました。最後になりましたがこの場をお借りして関信支部役員の方々、永井専門職、総会をお手伝い頂いた相模原病院の方々そして地区会役員に心より感謝申し上げます。

平成22年度神奈川地区会　役員名簿
会　　長　近藤　正　（箱根病院）
事務局長　與儀　浩　（横浜医療センター）
理　　事　安保　伸樹（相模原病院）
理　　事　杉原　理恵（久里浜アルコール症センター）
理　　事　山崎　直樹（神奈川病院）

千葉地区会文化活動研修会を終えて

国立がん研究センター東病院　飯　田　好　江

我が国は他国に類を見ないスピードで高齢化社会へと進んでおり、既に2010年には国民総人口の20％である2,553万人が高齢者で、15年後の2025年には、3.5人に１人となり、29％を占めると予測されています。

世界一の長寿国となることは大変喜ばしいことですが、その一方で高齢化社会としての環境整備の遅れから、様々な社会問題が浮き彫りとなり、ＴＶ・新聞などに不幸な事件として取り上げられています。その一つである介護問題は、国民１人１人が問題意識を持ち、できる事から取り組み、助け合う社会づくりが必要であると思います。

このような状況の中、国臨協千葉地区会は文化活動として「介護技術について」というテーマで、体を動かし・体で覚える研修会を２月13日（土）に開催しました。当日は小雪混じりの悪天候の中、また、バンクーバー冬季オリンピック開催の日に関わらず35名の参加がありました。（中には何人か誘惑に負けドタキャンされた方もいましたが…）

介護福祉士・救急救命士養成学校である新国際福祉カレッジ、介護福祉科の２名の先生方をお招きし、第１部として 介護の基礎的知識を講義して頂き、第２部に介助の実際というテーマで実技指導をして頂きました。　介護の基礎的知識においては、①介護される人は物ではなく人である事 ②全てを手助けするのではなく、できない部分を手助けし、できる部分（機能）を最大に活動できるように誘導する事 ③行動だけではなく会話、スキンシップなどを通じて手助けをする事などのポイントを説明して頂きました。また、介助の実際では、椅子・ベッド・車椅子を使用し、５～６名のグループに分かれ、椅子から椅子（車椅子）への移動、仰臥位から側臥位そして端臥位の移動、ベッドから車椅子への移動の仕方などを指導して頂きました。普段健康な私たちにとって何でもない事が介護を必要とされる方にとってはとても大変であり、介助の仕方によっては手助けでなく、拷問になってしまう事など、両先生のわかりやすく丁寧なご指導が笑いと緊張の中で行われました。最後に介護者の悩みである腰痛解消のための腰痛体操を特別に伝授して頂きました。

今回のテーマである「介護技術について」は、職場における患者さんへの対応、また家族に対しても即実行可能な研修会であったと思います。講師の先生方の話術と参加者の誰もが「明日は我が身、他人事ではない」という思いが強かったのか、あっというまの３時間でした。その後第３部の宴会と云う名の勉強会が場所を移して行われ、老若男女懇親を深めて国臨協千葉地区会文化活動は終了しました。

群馬県地区会定期総会・教育講演会を終えて

ＮＨＯ高崎総合医療センター　浦　田　佑　子

平成22年3月13日(土)、NHO高崎総合医療センター大会議室において、平成21年度国臨協群馬地区会総会及び教育講演会が開催されました。

初めに教育講演では、『細菌検査今昔話』と『微生物検査「コツ」とコツコツ』という題で、高崎総合医療センターの清水紀臣主任技師に講演していただきました。細菌検査の現状と症例をまじえながら微生物検査におけるコツを教えていただき、大変勉強になりました。

続いて、永井専門職に『ブロック事務所連絡事項』をお話しいただきました。試薬共同購入の報告や、認定資格取得状況、ナショナルセンターの独法化について、スライドを使って詳しくご説明していただきました。

次に三浦支部長と吉田副支部長より、ご挨拶と関信支部からの連絡事項をお話しいただきました。

定期総会においては、平成21年度の経過報告、会計報告、会計監査報告を行い、平成22年度の事業方針について協議しました。支部から総会の開催時期について変更の依頼があったので、総会開催の時期について議論し、来年度は10月または11月に開催予定と決まりました。全ての議案に承認していただき、次期役員を選出し、新旧役員より挨拶を行いました。

総会の最後に退官される高崎総合医療センターの霜田技師長と西群馬病院の岸主任技師へ地区会より花束を贈呈させていただきました。その後記念撮影をし、無事に閉会することが出来ました。

総会後は、10月に新棟開院した、高崎総合医療センター内を見学し、病院近くの居酒屋にて懇親会を行いました。各施設の技師長からメンバー紹介をしていただくなど、楽しくお酒を飲みながら会員の皆様との親睦を深める事が出来ました。

最後になりましたが、ご協力いただきました会員の皆様、お忙しい中ご講演いただきました永井専門職、ご出席いただきました三浦支部長、吉田副支部長に心より感謝申し上げます。

平成22年度　群馬地区会役員
会　　長　石川　　淳　（栗生楽泉園）
事務局長　南雲　　功　（沼田病院）
会　　計　竹淵　友弥　（高崎総合医療センター）
理　　事　山居　伸以　（高崎総合医療センター）
理　　事　松本由美子　（西群馬病院）
理　　事　鈴木　忠利　（栗生楽泉園）
会計監査　角田　高枝　（沼田病院）